

事業番号	0	7	4
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	青年の家管理運営事業				担当部	こども未来部					
事業期間	平成22年度 ~ 令和2年度以降				担当課	こども政策課					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	13	展開方向	4							
予算区分	一般会計	款	10 教育費	項	05	目	04	大	02	中	01

2. 実施状況

・施設の管理とともに、青少年講座の企画・運営指定について管理。
 ・青少年の健全な成長と地域に役立つ人材の育成を目指し、青年対象講座、親子対象講座、こども対象講座、ジュニアセミナー講座を開催した。
 ・青少年講座修了後に結成された同好会に発表の場を提供するとともに、「青年の家フェスティバル」を開催し、青少年活動の交流を深めた。*参加団体:6団体、来場者数:約250人(主演者含)
 ・青年の家サポーター・中高生サークルによる「イベント企画隊in小牧山」を開催した。
 ・18団体を青年の家登録団体・減免団体として、使用料の一部免除を行うなど、サークル活動等への支援を行った。
 ・不登校の悩みを抱える児童生徒の適応指導教室(学校教育課主管)への協力・支援を行った。
 ・「寺子屋」を夏休みの6日間、春休みの3日間開催し、安心して勉強や遊びに集中することができるよう、こどもの居場所づくりを実施した。合計約170人の利用。

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
			直接経費	財源	千円	26,440	28,194	51,906
		一般財源	千円					
		国・県支出金	千円					
		その他	千円					
		計(A)	千円	26,440	28,194	51,906	28,131	
		対前年比	%	-	1	2	1	
		(当初)予算額	千円	27,893	28,873	52,064	28,984	22,349
	人件費	正職員	人	0.2	0.2	0.2	0.2	
		正職員(平均人件費)	千円	1,497	1,497	1,497	1,497	
		その他職員	人					
		その他職員(時給×年間時間)	千円					
		計(B)	千円	1,497	1,497	1,497	1,497	
		事業費合計(C=A+B)	千円	27,937	29,691	53,403	29,628	
指標	成果指標	青年の家利用件数	目標	-	-	-	-	-
			実績	3,778	3,754	3,779	3,565	
	講座参加者数	目標	-	-	-	-	-	
		実績	302	235	193	168		
	活動指標	青年の家開館日数	目標	307	307	307	307	307
			実績	308	307	307	307	
		講座開催回数	目標	40	40	40	40	40
			実績	51	49	47	17	
@事業費	受益者数(a) 利用人数	人	21,708	20,567	21,316	21,054		
	受益者あたり事業費 (b=C/a)	円	1,287	1,444	2,505	1,407		

診断結果	改善点は見られない	改善点が若干見られる	○	大いに改善すべき
	<p>・青年対象講座の参加者数が減少にあり、小学生とその保護者を対象とした親子講座や、小中学生を対象としたジュニアセミナーに講座の中心を移行した。</p> <p>・ボイスカウト利用の減少や、サークル・減免団体自体の会員減少が進んでいるため利用件数が減少している。</p>			

4. 総合評価

事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの				
削減額・対象	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節	節
評価結果	<p>・青年の家フェスティバルの場で団体同士の交流を図り、活性化に向けたPRを行っている。しかし、会員獲得や活動の充実化としては細々としたものであり、青年層を中心とした活動は年齢とともに縮小へ向かっていく傾向である。</p> <p>・新たな利用者獲得のため、新しいプログラムを企画し提供しているが、定員を超える応募には至っていない。講座の周知方法を再検討すると共に、青年の家運営委員会での意見を生かした講座開催や事業展開を図る必要がある。</p> <p>・親子対象講座やジュニアセミナーが定着してきているので、受講した小中学生が次代の青年活動を支えるようなプログラムと、そこに現在の活動グループが指導育成の立場として交流または連携が図ることができるよう検討しながら、事業を継続していく。</p>					